

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘 (1階)		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成26年1月16日(木)	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ligvosyoCd=2793200094-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 【日常生活】 何事も御利用者様とスタッフが一緒にいき、ADLやQOL維持向上に努め、楽しく活気のある生活を提供させていただいています。 【豊富な年間行事】 初詣、節分、ひな祭り、お花見、端午の節句、七夕、夏祭り、秋の遠足、敬老会、クリスマス等の年間行事だけでなく、お誕生会、外出モーニング、ドライブランチ、おやつ外出など御利用者様の希望に合わせて実施できるたのしい家です。 【医療連携と報告】 訪問診療、訪問歯科、訪問看護と連携し、ご利用者様の健康管理を行い安心できる生活を提供しています。 【職員研修】 本社研修以外に、毎月施設内研修を実施して職員のスキルアップと心のケアを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム独自の理念である「思いやりのある家」「笑顔のある家」「緑豊かに四季を感じられる家」は、職員間で話し合い、法人理念に加え昨年新たに作られました。高齢者の尊厳や接遇について研修を強化し、外出レクリエーションや地域行事への参加、園芸担当を決めて利用者と一緒に野菜作りを行う等、理念を意識し実践に向けて取り組んでいます。特に今年のテーマを接遇として取り上げ、様々な場面について事例を出して検討し、常に丁寧な対応に徹するよう心がけています。職員は利用者に対し認知症であるという特別な意識ではなく、一人の「大切な人」として温かく接しています。また利用者に教わる事や、励ましの言葉もらう場面も多く相互に支え合う事で、利用者は自然な笑顔で自由にのびのびと過ごされ、その人らしい暮らしの提供に繋がっています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各階フロアに職員全員参加で作成した理念を張り出し、職員間で共有している。地域の方々への声掛けや地域行事参加に結びついてきている。	ホームの理念は昨年職員全員にアンケートで意見を募り、会議でまとめて作りしました。毎月法人の理念と合わせて読み上げて内容の理解と浸透を図っています。理念に基づき、園芸担当を決めて緑化に努めたり、近隣との交流を意識するなど職員一人ひとりが実践に向け取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の施設周辺清掃だけでなく、地区からお知らせいただく落語会、盆踊り、秋祭り、市民祭り等に参加。またクリスマス会は公民館をお借りして地域の方々にも参加していただいている。	地域行事の情報が入れれば積極的に参加しています。ホーム主催のクリスマス会に地域の方を招待したり、新年には近隣に赤飯を配る等、交流を図っています。玄関先での日光浴時は、高校生や近隣の方と挨拶や会話を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する高校のクラブ活動応援の声掛け、赤飯を炊いた時など隣近所付き合いのお裾分けなど職員と御利用者様と一緒にやって、近隣の方々にあるままのホームの姿を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本社マネージャーも出席して、会社の状況や施設の状況を全てお伝えしている。御利用者様、御家族様、地区会長、地域包括の方々から出た御意見は必ず施設会議にはかりサービス向上に繋げている。	会議は利用者・家族、自治会長、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。ホームの運営状況やアンケートの結果報告、地域行事の案内、家族の感想等、双方向的に意見交換がなされ、地域との連携が深まる会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当地域包括だけでなく、市の窓口へも報告や相談を行っている。地元ケアマネ会やグループホーム会に参加してご協力いただいている。	運営推進会議の議事録を管理者が直接役所へ提出し、制度や運営上の疑問点があれば出向いて相談しています。ケアマネ会には市の代表が出席して説明を受けることもあり、良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。	年1回研修を受講して、言葉の抑制を含めた拘束の弊害を理解し排除に努めています。会議等で事例を挙げて考えたり、ケアの中で不適切な言動があれば管理者が注意して改善を促しています。玄関とユニットは安全確保の為に施錠していますが、掃除やお茶タイムなど時間帯により開放し、出たい時には職員が付き添って出掛けるなど閉塞感のないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員虐待防止の意味を理解し、実践に取り組んでいる。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ会主催の研修は受けている。今後は全職員が権利擁護に関する理解を深め、成年後見人制度等を活用できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が主体となり、十分な時間をとって御利用者様、御家族様の御理解をいただいている。ご利用内容の改定等は、運営懇談会などを通じて十分な説明を行い、ご理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見やご要望をいつでもおっしゃっていただけのように努めている。玄関に専用ポストを設置している。また本社より年に一度御家族様に満足度アンケートを実施し、施設運営改善に役立っている。	家族の来訪時にコミュニケーションを図って意向を聞いています。また、毎月個別のお便りを家族に送付し、何か気付いた点があれば知らせてもらうよう伝えています。年一度行う満足度調査を含め挙げられた意見は職員会議で話し合い、新たな体制を加えたり、内容により本社に挙げてアドバイスを受け速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	徹底討論徹底和解の本社理念のもと、毎月会議を実施して職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員の出勤や退勤時には管理者から声掛けし、職員の日々の気付きを運営に取り上げる努力をしている。	毎月フロアとホーム全体の職員会議があり、活発に意見交換がなされています。議題により管理者が事前に職員アンケートを取って全員の意見を引き出すよう配慮しています。利用者のケアや事故防止、業務手順の見直し等を話し合い、業務が円滑に行えるよう職員の意見や提案を積極的に取り入れ運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社「誰伸び制度」を全職員が理解し、やる気があればステップアップできる環境が作られている。また年に一度の職員希望調査で、本人の要望を優先して施設移動も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月本社で各種研修を実施。また各職員がスキルアップのため、資格習得研修等を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地元ケアマネ会やグループホーム会に参加している。フロアリーダーは本社研修にて他地域のリーダーと交流。職員は本社での事故防止会議などで他地域の職員との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントでは御利用者様より聞き取りが困難であれば、御家族様や関係ケアマネ等の話を傾聴して現状を把握することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご家族様が安心して話できるような場所と時間を設定し、話が尽きるまで徹底して傾聴している。またいつでも来訪時には気安く話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様のニーズをしっかり把握するように努めている。施設外サービス(訪問理容、訪問マッサージ等)なども充分ご説明して必要なものはご理解いただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の施設周辺清掃から居室やフロア掃除、調理、食器洗い、洗濯物たたみ等御利用者様と一緒に、「有難うございます。」と感謝の言葉が飛び交う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様は、御家族様に会えるのが一番うれしい—この事を大切に考えて、いつでも施設に来ていただけるよう雰囲気作りを行っている。イベントでは、なるべく御家族様が参加できるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	半数くらいの御利用者様には友人知人の定期的来訪があり、フロアや居室で寛いでいただいている。馴染みのスーパーなどへは、買い物同行を実施している。	日常的に利用者の友人や知人の来訪が多く、リビングや居室など居やすい場所を選んでもらい、お茶を出してゆっくりと過ごしてもらっています。通い慣れた地元のスーパーへ一緒に買い物に出かけたり、定期的に外出・外泊される利用者には体調管理と準備を行い、関係や習慣が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やレクリエーション、イベントにおいて御利用者様の個性を大事に活かしつつお互いが支え合う関係構築を支援している。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御利用者様、御家族様には何かあればいつでも相談に来れるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや計画作成者を中心としてカンファレンスを実施して御利用者様の思いや意向の把握に努めている。	日常のケアの様々な場面で一人ひとりの意向を聴き取り、支援経過記録やミーティングで情報を共有しながら思いを把握しています。意志表示が難しい利用者には家族に聞いたり、表情など様子を観て汲み取るよう努めています。個別のカンファレンスではケアが本人の意向に添っているかを常に取り上げて話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様やご家族様、元担当ケアマネなど関係する方々のお話を良く聴くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者様の介護記録を毎日記録して現状の把握に努めている。26年からは「機嫌の欄」を作り、状態に合わせてどのような対応をしてその結果どうなったかを記録し、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様やご家族様、介護職員、医療関係者などの意見を聞いてモニタリングを実施している。モニタリングの結果を次期介護計画に活かすよう努めている。	本人・家族の希望、アセスメント、職員の意見を基に介護計画を作成し、1～3ヶ月ごとにモニタリングを行っています。計画の見直しは概ね半年ごととなっていますが、状態の変化が見られたり職員から変更の意見が挙がった際は随時見直し、現状に合った計画作成に努めています。見直し時の担当者会議には訪問看護師が出席したり、主治医の指示も聞き取り計画に反映させています。	本人・家族の希望の抽出が難しい場合に希望欄の記録が不十分になりがちですが、日常の会話や様子から希望を把握し記載されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に必ず介護記録を確認して情報の共有を図り、状態の変化を発見して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	晴れた日の散歩、畑仕事やお買い物。お誕生日の夕食付き添いなど、その時々に応じて柔軟性のある支援をしている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて、地元神社への参拝、公園や商店街、薬局、スーパーなどを利用している。また隣接高校の文化祭を見学したり、公民館の落語会を楽しんだりされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週1階、2階と往診していただいております。特に体調変化のある御利用者様には週に関係なく診ていただいております。	入居時にホームの協力医が主治医になる事について説明していますが、希望があれば今までのかかりつけ医の継続も可能です。協力医は月2回の往診があり24時間対応となっており、医療指示書でホームと情報交換し、連携を図っています。家族には便りで往診日を知らせ、変化があった場合は随時連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に診ていただき、1週間の報告をしている。看護師からは訪問医師と職員に気づいた点や変化を報告し、訪問医師の指示が関係者全体に行き渡るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、提携病院の地域連携室と連絡を取り、御利用者様の状況の把握に努め、また担当医師より現状や今後の治療方針を教えていただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針を御家族様に説明し、職員には看取り加算申請の旨を伝えている。本社では、看取りについての研修も実施されていて、全職員が施設研修として受講している。	入居時にホームの看取り体制について説明しています。重度化した場合は、家族と主治医で何度も話し合いの機会を持ち、今後の暮らしについて希望を踏まえ方向性を決めています。今までに看取りの経験もあり、特別な医療処置を除いてできる範囲で受け入れるよう家族と相談しながら取り組みました。職員間では訪問看護師と連携を密にとる事を徹底し、方針についても共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年からADEを設置し、急変に備えての研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。また緊急避難先の隣接高校へは、文化祭などの見学を通じて通い易い環境を整えつつある。	年二回の消防訓練の内、一回は消防署立ち合いの下、夜間想定で行い、避難誘導や消火器の使用方の指導を受けています。独自の訓練では通報訓練を含めて行っています。訓練の状況は運営推進会議で報告しています。	運営推進会議での報告の際に、地域の防災について話題に取り上げたり、ホームの避難訓練への見学や見守りについて依頼の声かけ等をされてはいかがでしょうか。

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症実践者研修や、年に一度の認知症についての施設研修を実施して「御利用者様に寄り添う馴染みの関係」を構築できるよう努めている。	法人全体の会議にフロアリーダーが参加し、接遇の強化について指導を受け、ホーム内で伝達研修を行っています。日頃のケアで言葉遣いや排泄介助時など事例を挙げて確認し、不十分なところは目標に掲げて取り組み、常に尊厳を守った対応を行うよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけではなく、御利用者様が御自分で自己決定できるように時間を十分にとってじっくり聞かせていただくように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり起きて朝食を摂りたい方、風呂は毎日入りたい方、散歩は寒くても行きたい方、牛乳は毎日飲みたい方・・・それぞれの方の御希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の使い慣れた化粧品、装飾品など御家族様に購入をお願いしたり、買い物同行で購入したりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者納入の食材を御利用者様とともに、洗い刻み味付けをしている。また御利用者様の希望をお聞きして、エビフライなどのスペシャルメニューに変更することもある。	利用者に随時食べたい物を聴き取り、副採を付け足したり、時には業者の発注を止めてメニューを変えて提供しています。料理の下ごしらえやテーブル拭き、配膳、洗い物などできる方は職員と一緒にしています。また毎月喫茶店やレストランなどでの外食を取り入れ気分を変えて楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成するメニューでバランスの取れた食事を提供している。食事形態も粗キザミや極キザミも提供している。水分はゼラチンやスポーツ飲料も活用し、御利用者が摂取し易くしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。義歯は職員がブラッシングを行い、訪問歯科は毎週来ている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄訴えのサインを見つけてトイレ誘導している。また紙パンツから布パンツへの移行も徐々に行っている。	個々の排泄リズムを把握し、様子を観てトイレ誘導を行いトイレで排泄できるよう支援しています。タイミングが合わなくても安易に紙パンツにせず、布の下着のまま失敗がなくなるよう検討しながら支援しています。失敗が少なくなったことで表情が明るくなった方もおられます。夜間もオムツ等は使用せずトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を提供したり、ヨーグルトを活用している。また腸の動きを活発にする体操も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せず、入浴がお好きな御利用者には毎日入浴していただいている。	毎日入浴の準備を行い、10時～15時位までで少なくとも週3回は入ってもらっています。個々に時間や希望を聞き毎日入っている方もいます。入浴を拒否する方には声かけの職員や時間を変え、時間をかけて誘導し無理なく入ってもらっています。好みの備品を用意したり入浴剤等を使用し、ゆったりとした寛げる時間になるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクを実施して日中の活動量を増やし、夜間良く眠れるように工夫している。また居室で休息したい御利用者様にはいつでも居室に戻れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週火曜日と水曜日に薬剤師が来るので、その都度職員から薬についての質問ができる体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、料理、編み物、歌、将棋、買い物など御利用者がしたい事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の清掃、散歩、外出モーニング、ドライブランチ、おやつ外出、お買い物、御家族様との外出、御自宅への外出など、御希望に応じて実施している。	ほぼ毎日少人数で近隣への散歩にでかけています。季節に合わせて桜公園や菖蒲園、万博公園等、遠出の外出も取り入れています。年1回のホーム全体の遠足は家族にも参加を募り、マイクロバスを借りて一緒に出掛けています。今後はフロアごとに行き先を考えた遠足も実施できるよう検討しています。	

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の買い物以外、御利用者様の預り金での個人買い物もある。職員と外出同行して、お金を出して買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年から書道教室を月1回実施。ご家族様への年賀状を御利用者様に書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節に応じた花を飾り、壁飾りは月々の変化が感じられるよう配慮している。日々温度や湿度調整を行い、不快な音を出さないよう努めている。	リビングは日当たりよく明るい共用空間になっており、季節の花や行事に合わせた利用者の共同作品が飾られています。通風や光の調節、加湿器を随所に設置するなど環境整備にも配慮しています。リビングと居室廊下の間のキッチンスペースはドアを開放し、自由に行き来でき広く使えるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置いて、一人で過ごせる空間作りをしている。食卓の配置は、気の合う仲間が集えるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や額縁、文机や仏壇、タンス等ご入居前に使われていた愛用品を持ってきていただいている。	入居時に家具等はできるだけ使い慣れたものを持ち込んでもらうよう家族に依頼し、利用者、家族と相談しながら配置しています。利用者が持ち込みを希望するものを自宅へ一緒に付き添って取りに行くこともあり、家族の写真、ぬいぐるみ、仏壇など本人の大切にしていたものが飾られ、安心して過ごせる居室の提供がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは明るさの調整ができるように設計されている。調理器はIHを使用して安全第一。調理場も広くとり、御利用者と一緒にできるようにしている。		